

## 池田町の紹介 (池田町のHPより抜粋)

木曾三川によって形成された広大な濃尾平野の最北端に位置し、西に924メートルの池田山を背負い、山地の総面積は町の総面積の1/3にも及びます。東は神戸町、南は大垣市、西は垂井町、北は揖斐川町に隣接し、町の中央は国道417号線が南北に縦横しており、大垣に12キロ、岐阜市へ20キロの位置にあります。



池田山から望む池田町

- ・人口 24,690人 (2015年1月1日現在)
- ・面積 38.80平方キロメートル
- ・町章



町名池田の文字を図案化し、中央の円は、町全体の円満と豊かさ、中央の十字形は光による明るさを意味し、上部の翼は町の向上発展を祈る意味をこめています。

- ・町の花



池田山の東の斜面には緑の茶畑が広がり、暖かい日差しを受けて良質のお茶が育っています。この茶の白くかわいらしい花が池田町の花です。

- ・町の木



池田町の木はヤマザクラです。特に霞間ヶ溪(かまがたに)の桜は有名で国の史跡名勝・天然記念物であり、全国の桜百選に指定されています。

- ・池田山

国指定の天然記念物・ヤマザクラで名高い霞間ヶ溪から、海拔924メートルの池田山山頂まで、付近一帯の103ヘクタールを占める自然公園の「池田の森」があり、登山道、車道ともに整備されています。



池田山と麓に広がる水田

- ・池田温泉

池田温泉は成分として、陽イオンのナトリウムイオン(Na+)と陰イオンの炭酸水素イオン(HCO<sub>3</sub><sup>-</sup>)を含んでおり、これらはまさにつるつる感を醸し出す重曹(炭酸水素ナトリウム)そのものです。さらに特筆すべきことは、池田温泉は重曹以外の成分をほとんど含まない全国的にも大変珍しい純重曹の温泉であり、食塩など他の成分を含む温泉と比べて圧倒的につるつる感が強くなります。

重曹を多く含む温泉は、反応により皮膚の油脂分を乳化して石鹸に似た物質をつくったり、アルカリ性がタンパク質を溶解したりするため、入浴によりつるつる感を感じます。このため、池田温泉のような重曹を多く含むアルカリ性の湯は、皮膚表面の古い角質を溶解除去し、肌を滑らかにする「美肌効果」が期待できるので「美人の湯」と呼ばれています。

池田温泉の「アルカリ性単純温泉」という泉質は、美肌効果を期待できるだけでなく、刺激が少なく体にやさしい温泉です。あかちゃんからお年寄りまで、安心して利用することができます。



露天風呂



内風呂



内風呂

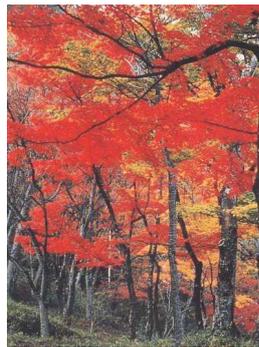
・天然記念物：霞間ヶ溪

霞間ヶ溪は、池田町藤代字鎌ヶ谷を中心とした桜の名所です。昭和3年、山桜及び彼岸桜を交えた多くの天然変種を含む桜の植生地として「天然記念物」の、また、これら多数の桜の織りなす景観が優れていることから「名勝」の、ふたつの指定を国から受けました。

春の訪れとともに溪流沿いに山桜、吉野桜、枝垂れ桜など数多くの種類の桜が一斉に咲き誇ります。桜の花が咲く様子を遠くから見るとまるで霞がかかったようにみえるところから、いつしか「霞間ヶ溪」と呼ばれるようになりました。



春の霞間ヶ溪



秋の霞間ヶ溪



冬の霞間ヶ溪

・天然記念物：ハリヨ（トゲウオ科イトヨ属の淡水魚）

体長5センチ前後、からだに6本のトゲを持つのが特徴です。岐阜県西南濃地方と滋賀県東部にしかいない、とても珍しい魚です。近年、その絶滅が心配されています。

ハリヨを含むイトヨ属は、北の寒い地方の魚です。本来なら、池田町あたりは暑すぎてすめないので、八幡の冷たい水がわく所（湧水地）に生き残っているのです。

池田町のハリヨ繁殖地では、地元住民の皆さんを中心に熱心な保護活動が続けられています。ハリヨはもちろん、ハリヨがすめる周辺の環境を守っていきこうと、周辺のゴミ拾い、草刈り、生活雑排水を改善する研究、生息調査など、地域住民が一丸となって活動しています。



ハリヨ



ハリヨの生息する上八幡の湧水池